

# 取組紹介

## 「山田の学び」で人づくり

山田町教育委員会

教育長 松葉 寛

### I はじめに

山田町の小中学校の統廃合は、令和2年度に小学校が9校から3校、中学校が2校から1校（山田中学校）となりました。そして、5年度末に震災後に新築開校した船越小学校が閉校となり、6年度からは小学校が2校（山田小学校・豊間根小学校）となりました。なお、新しく建設していた山田小学校は4月末に完成し、2学期からの開校に向けて準備を進めています。

「山田の人づくり」を実現するために、『やまだの学び』を策定しました。策定に当たっての方針は、次の3点です。

- 1 中1ギャップを解消し、中学校での学びをより円滑に進めるために、すべての小学校で、中学校生活を見通した共通の取組を推進する。
- 2 学年の進級に左右されない安定した学びを表現するために、小学校・中学校の一貫した学びのスタイルを継続して取り組む。
- 3 生活リズムや家庭学習の取り組みを充実させ、

### II 山田町の教育指針

令和元年度に山田町教育委員会が所管する教育研究所では、教育理念「郷土を愛し、復興と将来のまちづくりを担

う山田の人づくり」を実現するために、『やまだの学び』を策定しました。策定に当たっての方針は、次の3点です。

### 「山田の学び」 R6.4.1

#### 「山田の学び」で育てる「山田の子ども」

**基本理念**  
『郷土を愛し、復興と将来のまちづくりを担う山田の人づくり』



育てたい資質・能力	目指す子どもの姿
郷土愛	山田が好き (豊かな心を持ち、ふるさと山田を愛する子ども)
学びに向かう姿勢	チャレンジが好き (目標に向かってチャレンジする子ども)
学びの定着・向上	学びが好き (学んだことを活用する子ども)

意欲プロジェクト (学びの構えを培う)	
リーダー	副校長 (山田小)
担当者	各校生徒指導主事
メンバー	各校生徒指導部・保健部
担当指導主事	担当指導主事
指標	①自分の生活習慣を確立・調整しようとしている ②失敗を恐れずチャレンジしている
具体的取組	①「60プラスプロジェクト」の推進 ②頑張ればできそうな目標設定の支援
関連事業	
4/10 (水)	生徒指導主事研修会①
7/9 (火)	生徒指導主事研修会②
12/6 (金)	生徒指導主事研修会③
2/19 (水)	生徒指導主事研修会④

知性プロジェクト (学びの力を伸ばす)	
リーダー	副校長 (豊間根小)
担当者	各校研究主任
メンバー	各校研究部
担当指導主事	担当指導主事
指標	①授業の内容を理解している ②自分の考えを話したり、広げたりしている
具体的取組	①評価規準 (やまだスタンダード) に基づいた授業づくり【ICT活用】 ②「一人学び」と「学び合い」の時間の確保と工夫
関連事業	
4/9 (火)	研究主任研修会①
6/27 (木)	授業研究会 (山田小)
8/29 (木)	授業研究会 (豊間根小)
10/10 (木)	授業研究会 (山田中)
11/7 (木)	授業研究会 (山田高)
12/3 (火)	研修のまとめ
2/5 (水)	研究主任研修会②

感性プロジェクト (学びの感性を高める)	
リーダー	副校長 (山田中)
担当者	各校教務主任
メンバー	各校教務部
担当指導主事	担当指導主事
指標	①友だちと協力して活動している ②山田町のことを知っている
具体的取組	①小小連携・小中連携を図ったリーフレットの活用 ②小小連携・小中連携を図った「いわたの復興教育」の推進
関連事業	
4/9 (火)	教務主任研修会①
2/21 (金)	教務主任研修会②

支援プロジェクト (すべての子どもの学びを支える)	
リーダー	町教委特別支援コーディネーター
担当者	各校特別支援コーディネーター
メンバー	各校支援学級担任
担当指導主事	担当指導主事
指標	①自分の得意・不得意を知り、チャレンジしている ②「わかった」「できた」を感じている ③友達と仲良く遊び、感謝の気持ちを持っている
具体的取組	①自己肯定感、自己有用感を高める働きかけ ②個別の指導計画を作成し、「わかった」「できた」を感じられる授業づくり ③自分のふささを知る機会の設定 (山田町探検や施設、交通機関の利用など)
関連事業	
6/12, 11/6, 2/5	はまなす交流会
4/22, 8/7, 10/7, 1/7, 2/7	特別支援担当者学習会
7/2, 12/13	山田中学校特別支援学級見学会

【図1】『山田の学び』グラウンドデザイン

学びの素地力を高めるため、子どもたちの学びについて保護者との共通理解を図る。

策定された『やまだの学び』は、文部科学省が示している「学習指導要領」・本県が示している「学校教育指針」・宮古教育事務所が示している「重点事項」を踏まえた「山田町としての教育指針」となります。

### Ⅲ リニューアル版

#### 『山田の学び』

『やまだの学び』の取組が5年経過したので、5年度末にCAPDのマネジメントサイクルに基づき見直しを行いました。これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ、現状に応じた内容と取組に変更しました。また、名称も『やまだの学び』から『山田の学び』とし、6年度からリニューアル版としてスタートしました。リニューアル版『山田の学び』のグランドデザインは、

【図1】のとおりです。町内の

の先生方は、年度初めの全体研修会で『山田の学び』の理念や取組等を共通理解します。共通取組である「道徳の授業研究」は、各校ごとに計画的に推進します。また、4つのプロジェクトの取組は、各校の先生方が指定されたプロジェクトに所属し、研修会等を重ねながら推進します。そして、冬休み中の全体研修会で取組の成果と課題を確認し、次年度の取組に反映させます。

2 4つのプロジェクト

① 「学びの感性を高める」感性プロジェクト

小中連携・小中接続を図ったりフレッット(山田町の魅力を掲載したものを活用し、9年間の系統的な体験活動を実施します。これにより、「山田が好きな子ども」を育成します。

② 「学びの構えを培う」

意欲プロジェクト  
県が推進している「60プラスプロジェクト」を実践し、望ましい運動習慣・食習慣及び生活習慣を確立させます。これにより、「チャレンジが好きな子ども」を育成します。

③ 「学びの力を伸ばす」

知性プロジェクト  
評価規準(やまだスタンダード)に基づいた授業づくり(ICT活用)を行い、指導と評価の一

体化を図ります。これにより、「学びが好きな子ども」を育成します。

④ 「すべての子どもの学びを支える」支援プロジェクト

特別な支援が必要な子どもたちへの教育のあり方を小中・小中で共有できるように連携・接続を図ります。これにより、「自己を理解してチャレンジする子ども」を育成します。

### Ⅳ おわりに

『不易と流行』という言葉があります。

教育における『不易』は、「どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらない価値があるもの」です。

『流行』は、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」であり、変化の激しい社会に柔軟に対応していく必要があります。

山田町の教育の『不易』は、

## プロフィール



松葉 覚  
(まつば さとる)

昭和61年度から中学校教員としてスタートし、県立総合教育センター、宮古教育事務所、県教育委員会事務局を経て下橋中学校長で定年退職。令和5年6月より現職。

目指す子どもの姿そのものであり、生きる力を兼ね備えた「人づくり」です。そこで、山田町の先生方がやるべき『流行』は、出来上がったものを踏襲することではなく、目の前の子どもたちをしっかりと見つめ、実態に応じて手立てをアップデートしていくことです。この『不易と流行』の精神を大切にしながら、「山田の学び」を通して子どもたちが未来社会を自分らしく生き抜いていく力を育成したいと考えています。